6-23　実践協力校における実践
事例㉓　清川村立緑小学校（６年・総合的な学習の時間）
～校内研究と学びのプロセスのつながりを意識した授業実践～

ポイントになる主な学びのプロセス

- **様々な考えから、自分の考えを構築する**
- **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**
- **再構築した自分の考えを表明する**

Ⅰ　学校全体における取組

○　校内研究テーマ　「知りたい！考えたい！伝えたい！－ＩＣＴを活用した緑小教育－」

知ること、考えること、相手に伝えることを進める中で、「伝えること」において、課題を感じ、児童に身につけさせたい力として、発達の段階に応じた目標を立てた。ＩＣＴをツールとして活用し、自分の考えを相手に伝えるため、自分の考えを再構築させるために、様々な視点から、他者の考えを聞くこと、視野を広げることを意識した取組を取り入れた。

また、清川村では、６年生が自分たちの考えを村長に提案する「子ども議会」が毎年行われる。その議会に向け、「学びのプロセス」を意識した授業や教育活動を展開し、村の現状や課題を自分のこととして捉え、他者の考えを聞きながら提案できるよう、６年間を見通した学習活動を実践した。

○　清川村立緑小学校の各発達段階に応じた目指す子ども像

【低学年】「身の周りのできごとに関心をもち、考えたことを伝え合う子」
【中学年】「課題を自分のこととしてとらえ、相手意識をもって考えを伝え合う子」
【高学年】「様々な意見を自分の中で考え合わせ、再構築した考えを伝え合う子」



Ⅱ　系統性をもった主な授業実践

ポイント1

【第２学年　生活科】



単元名：もっとなかよしまちたんけん

単元目標：

清川村の人々と関わる活動を通して、村で生活したり、働いたりしている人と自分たちとの関わりを見つけ、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、村の人々の地域に寄せる思いに気付くとともに、人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとすることができる。

※第１学年では「公園探検」や「村探検」を実施。近隣の公園等を探索。

目指す子どもの姿・ねらい

清川村の人々や場所（公園やお店など）と関わる活動を中心に学習を進め、そこで出会った村の人々や村にある場所との関わりを深めたり、新たな場所や人々との出会いで関わりを広げたりしていく中で、清川村のよさに気付き、自分たちが生活している村の人や場所への愛着を深める。

【第４学年　総合的な学習の時間】

単元名：清川村の特産物　お茶について調べよう

単元目標：

地域にある「チャピュア清川」（お茶工場）の見学から地域の特産物であるお茶に興味をもち、お茶の作り方や清川村のお茶の特徴について様々な資料を活用して調べるとともに、地域の魅力を分かりやすく表現することができるようにする。



目指す子どもの姿・ねらい

地域の特産物である清川茶の特徴について調べる活動を通して、その魅力を知らせたいという気持ちを高めるとともに、調べたことを地域に発信したり、活動に関して地域の人々に協力をお願いしたりすることなどを通して、自分たちの取組が地域や社会へも影響を与え得ることに気付き、地域社会との繋がりを深めようとする。

ポイント1

社会に参画する意識をどのように育むか　～段階的な取組から育む～

本事例では、村議会での提案内容を考える前に、まず自分たちの学校のよさや改善点、学校生活における課題に目を向けることで、学校のことを「自分のこと」としてとらえようとしています。その後に「現在の村のこと」「将来の村のこと」に視野を広げ、自分たちの住む村のことも同じように「自分のこと」としてとらえる下地を育んでいるところが特徴といえます。また、村長講話を事前に行うことで、子どもたちがより現実的に村のことを「自分のこと」として捉え、村の課題をより深く捉える機会となっています。１、２年生で学校周辺の探索・探検、３、４年生で村の商業の学習、５年生では福祉体験をして、村の人々の立場になって考える学習をしました。こうした段階的な取組によって、「主体的に社会に参画する意識」を育み、将来の主権者、あるいは社会の形成者としての意識を育むことができます。

Ⅲ　授業実践（第６学年）　研究テーマ「子ども議会で自分たちの考えを提案しよう。」

○　ねらいと主な学習活動（総合的な学習の時間）

1学期

◇児童にとって最も身近な社会である学校について、学校のよいところや改善すべきところ、学校生活の中で困っていること等、現状や課題を挙げ、その改善策について考える活動を通して、学校の課題を自分のこととして捉え、関わろうとする姿勢を育てる。

ねらい

◆学校生活における課題を自分のこととして意識するために、「自分たちの力で学校をよりよくしていこう」という話し合いや、課題解決にむけて自分たちにできることを考えて、行動する。



主な学習内容

2学期

◇自分たちの住む村の現状や課題を捉えながら、よりよい社会をつくるためにできることを考えたり、他者の考えを聞いたりして、自分の考えを再構築する。

◇ＳＤＧｓに関する資料や文部科学省ホームページの「2040 年の未来予想図」を用いてイメージを膨らませ、今社会が求めていることも含め、多面的な考え方から、自分の考えを再構築する。

ねらい

⇒他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

⇒再構築した自分の考えを表明する

◆村長から、将来の村のビジョンや願いを聞く。村長の話からわかった村の現状や課題を基に、自分たちの考えた、村をよくするための方策を再度検討し、再構築する。

本時①

◆単元目標

地域の人々の様々な生活の様子や歴史、伝統、文化、産業、生活習慣などについて理解と愛着をもち、構成員の一人として、よりよい郷土を創る資質や能力を育てる。

主な学習活動

3学期

◇再構築した自分たちの主張について、理由や根拠を明らかにするとともに、相手により伝わる工夫をしながら意見を表明することができる。

ねらい

⇒様々な考えから、自分の考えを構築する

⇒再構築した自分の考えを表明する



◆子ども議会で自分たちの考えをまとめた提案を発表する。

本時②

主な学習活動

○　単元の指導計画（全 20 時間）

単元名：「∞プロジェクト　～　つくろう自分の未来・みんなの学校・私たちの村　～」

ポイント2

小単元（時間）	ねらい（◇）おもな学習内容（◆）
清川村の現在と魅力、問題点を見出そう（２時間）	◇清川村のよいところや現在の課題について考える。 ◆これまで学習したことをふまえ、村のよいところや課題について協議する。
清川村の未来の姿を設定しよう（４時間）	◇自分が大人になったときの清川村の姿を考える。 ◇より広い視野を持つため、ＳＤＧｓの 17 の目標について理解を深める。 ◆村長講話を聞き、村政について知る。
子ども議会の準備をしよう（８時間）	◇グループごとに子ども議会に向けての提案したい内容を考える。　【本時①】 ◆提案内容を学級全体で話し合い、絞る。 ◆プレゼンテーションソフトを使って提案資料を作成する。
子ども議会に参加しよう（６時間）	◆子ども議会のリハーサルをする。 ◆子ども議会本番で提案を発表する。　【本時②】 ◇子ども議会の振り返りをする。

※　「国会の仕組み」「公民・地域の政治」等の学習については、社会科で学習

ポイント2

自分の考えを深め、再構築して表明する　～「伝える」ためにどう提案するか～



村議会での提案に向け、授業者は児童が「どうしてそれを提案するか」を理由や根拠とともに説明できるよう指導しています。また、一人の児童のアイディアについてグループや学級全体で意見交換したり、実際の施政者である村長の講話を通してその願いやビジョンを聞いたり、さらにＳＤＧｓ等の学習を行ったりすることで、**より広い視野から自分たちの考えが、現在・未来の社会とどのように繋がるのかを考える**工夫が見られました。

ＩＣＴ機器を活用することは、**時間的・空間的制約を超えて**音声・画像・データ等を蓄積・送受信し、今までにない方法で、**多様な人たちと協働しながら学習を行うことができ、自分の考えを深める機会となります**。

今回児童は、このような学習のプロセスを経ることで再構築した自分の意見を、より分かりやすく伝えることを目指して、よりシンプルなプレゼンテーション資料を作ることを心掛けました。自分の意見を表明する場面においては、伝えたい内容を精選し、受け取る相手を意識して発信することも重要です。

Ⅳ　授業の様子

①　「子ども議会の準備をしよう」

○　本時の目標

よりよい清川村にするために、村長の思いや友達の考えを基に、自分の考えを根拠と理由をもって主張できる。

・これまでの子ども議会では、一方的にお願いするような質問が多い印象を受けていたため、「自分が大人になったらこういう村にしたい」「こんなふうに（村を）変えたい」という提案ができる児童の育成を目指し実践を進めた。

・自分の身近な課題から始まり、そこから村の課題へ、そして自分の生活に戻ってくるという流れによって、児童が自分のこととして考えていくことに繋がった。

○　本時の展開

過程	活動の流れ、指導上の留意点	ポイントになる学びのプロセス
はじめ	1．前時までの振り返りをする ・村長講話の内容を振り返り、村長の思いを確認する。 ・ＳＤＧｓをもとに考えた自分たちの考えを振り返る。 **子ども議会に向けて，提案する内容を考えよう。**	
なか	2．個人で考えを整理する ・タブレットに記録したアイディアを見ながら、条件に適した提案を考える。 ・主張の根拠として村長の思い、村の現状、ＳＤＧｓの内容などを取り入れる。  Ｔ：村長さんがどのようなことを考えているのかな。村の人々は何を期待しているのだろう。  村長さんは、村の知名度が低いって言っていたよね。もっと清川村のことを知ってほしいな。調べたんだけど、清川村の歴史、結構面白いんだよ。 確かにお寺とかもいいよね。清川村の歴史もいいけど、新しい観光になるようなものはないかな。面白い観光なら、人がたくさん集まるかも！   そうだね。新しくたくさんの人が来てくれるといいよね。でも、清川村にどうやって来てもらう？移動手段が少ないよ。  うん。村にバスがもっとあるといいんだけど…。 3．提案する内容について、グループで意見を交流する ・役割分担（司会、記録、発表）をしてから話し合いを始めるよう確認する。 ・友達の意見を共感的に受け止められるように話し合いを進める。 ・友達が話した理由や根拠に着目し、共通している部分や違う部分について考えをすり合わせることができるようにする。  移動手段にバスを運行するのはいいと思うけど、排気ガスの問題があるね。 うん。そうなんだよね。SDGsの目標をみると、他にも関連して、『すべての人に健康と福祉を』ってあるよ。   村の高齢化も進んでいるし、やっぱりバスは必要だと思う。それに、無料だったら、みんな買い物や病院にも行きやすいと思う。 バスは高齢者の方だけでなく、子どもたちも、大人も高齢者も使えたらいいよね！それに、このSDGsの目標にもあてはまるよね。  **<u>再構築した自分の考えを表明する</u>** グループでの話し合いを通して、自分たちのアイディアがどのように深まったかを意識させます。	
まとめ	4．話し合った内容を発表する ・決定したことの報告だけにとらわれず、話し合いの経緯を発表することを意識づけるようにする。  **目指す子どもの姿・ねらい** 村長の思いや、村の現状、「ＳＤＧｓ」、「2040 年未来デザイン」など、複数の考えを関連付けたり、比較したりしながら、理由・根拠を持って自分の考えを持てるようにする。	

②　「子ども議会に参加しよう」



○　子ども議会の目的

村立小学校及び教育委員会、議会の協力のもと、村の将来を担う村立小学校第６学年の児童を対象に、議会本会議の体験を通じて社会に参加する意識を育むとともに、本村の議会や行政に対する関心と理解を深める。

（「第 23 回清川村子ども議会」実施要領より抜粋）

○　子どもたちからの提案：当日の議事（一般質問）

①　**「清川村のオリジナルＬＩＮＥスタンプを作りたい」**

清川村の知名度を上げるための道の駅や宮ヶ瀬などで買い物をしたお客さんに無料でＬＩＮＥスタンプを配付する。

②　**「村内専用無料バスを走らせてほしい」**

清川村の魅力の一つとして村内専用無料バスを走らせる。

③　**「清川村の人口や観光客を増やすために」**

※村内他小学校児童による提案

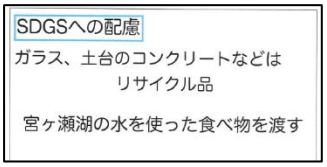
④　**「清川村の歴史イベントの開催」**

清川村の逸話や歴史あるお寺を生かし、歴史イベントを開催する。

⑤　**「宮ヶ瀬湖に水中トンネルを作りたい」**

宮ヶ瀬湖に水中トンネルという珍しい観光施設をつくる。









※児童作成のプレゼンテーション資料（抜粋）

③　子ども議会での提案後の取組について

【子ども議会における提案に対する村長答弁】

「清川村のオリジナルＬＩＮＥスタンプは、無料で提供できれば知名度は上がると思います。しかし、村が行うとなると公式アカウントを取得するのに大きな予算が必要になる。民間企業や地域と連携するなどやり方は考えられるので、今後検討したい」



※　現在の民間バス会社の運行状況の経緯を説明後、

「利用者数との兼ね合いもあり難しい課題ではあるが今後民間バス会社と相談していきたい」

【子ども議会後の、児童の振り返り】



議会での発言はとても緊張した。でも、村長の答弁を聞いて、やはり簡単にはいかないものだと感じた。いろいろな問題があって、実現するには難しいことがわかった。



提案の段階では「私たちの提案はどうせ通らない」と思っていたけれど、村長さんの話をきっかけに、私たちの知らないところで大人が関わり合いながら、村のことを真剣に考えてくれていることがわかった。



改めて、村のよさを実感した。たくさんの大人が関わってくれている。自分たちの考えはよいことだと思っていたけど、村の人たちにとっては、違った意見があることもわかった。

Ⅴ　研究協議



①　研究協議のテーマ

協議題：①児童は村の課題を「自分のこと」としてとらえていたか
②多面的・多角的に村の課題を考えていたか
③子ども議会を通して主体的に社会に参画しようとしていたか

②　活動を通して見られた子どもたちの変化の様子・成果と課題

変化・様子

・自分たちにとって必要なことを要望するだけでなく、<u>自分の生活を自分で変えていくことを大切に</u>しようとしている様子が見られた。
・ＳＤＧｓの視点や2040年の未来のことなどを取り上げることで児童の視野を広げ、授業者が補完することによって、児童が「自分のこと」として捉え、意欲をもって取り組めていた。

成果

・各提案でメリット・デメリット、多様な年齢層、他の自治体の現状との比較など、色々な視点からアイディアを出すことができていた。また、今回のように<u>学校外に出ていく取組は、主体的に社会に目を向けて参画する意識につながっていった</u>。
・取組を通して、児童が他者に対して自分の思いや考えを伝えることに対して、自信をもって行う姿が見られるようになった。また、相手のことを考えて発言したり、行動したりする姿も見られた。

課題

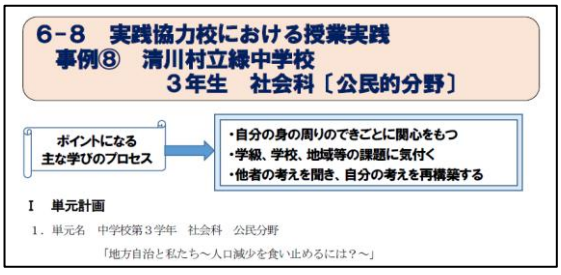
・議会当日は「村の知名度が低いこと」や子ども自身の課題意識に、提案内容が偏ってしまった。児童が自分の考えをより深められるよう、多様な視点を生かす教師のさらなる指導が必要である。
・小規模校で人間関係が幼少時から変わらず、子ども同士がある程度相手のことを知っていることもあり、意見がぶつかることや葛藤する状況が起きにくい環境となっている。様々な意見が交わされた場合、子どもたちが合意形成していく経験をどのように積んでいくかが課題である。

発達段階に応じた「政治的教養」　～小・中学校の連携～　　**ポイント3**

今回の子ども議会では、現実的な課題を捉え、社会の一員として考えた解決策や住民の願いや思い、夢や希望のある提案がありました。「実現が可能か」や「現実的に難しいのではないか」といった判断を考慮した提案の検討は、発達段階に応じて決定していきましょう。

また、他教科との関連、例えば社会科と関連させ、人口問題、地理的環境・要因、経済・文化的要因など、様々な視点からデータの分析を取り入れることで、子どもたちの提案から根拠となる資料が提示され、現実的な課題、そしてその解決へつながる提案となります。

本事例集6－8にある「清川村立緑中学校」の事例では、子ども議会で提案した児童が中学生となって、村の課題について考えを深め、より現実的な提案をしています。小・中学校で連携をすることで、児童・生徒が身につける資質・能力や政治的教養が積み重ねられ、より具体的・現実的な課題と向き合い、解決に向けた自分たちの考えを深めることができます。


6-8　実践協力校における授業実践
事例⑧　清川村立緑中学校
3年生　社会科〔公民的分野〕

ポイントになる主な学びのプロセス
・自分の身の周りのできごとに関心をもつ
・学級、学校、地域等の課題に気付く
・他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

Ⅰ　単元計画
1．単元名　中学校第3学年　社会科　公民分野
「地方自治と私たち～人口減少を食い止めるには？～」

※本事例集47ページ「事例6-8」参照。

